

心を見つめて読もう（5年）

## 五月になれば

～音読を主体に、登場人物の心情の移り変わりを読もう～

### 指導目標

場面の描写と関連づけて、登場人物の心情の移り変わりを読む。

場面の様子がわかる叙述とつなげて、登場人物の心情の移り変わりを読む。

叙述から理解したことをもとに音読記号を付け、主体的に音読する。

### 教材について

本教材『五月になれば』は、転校という現実を突きつけられた主人公大樹が、自分にとって特別の場所であるサクルー川と離れるつらさに思い悩みながらも、ひとまわり大きく成長していく姿を、北国の春の自然描写とともに描いた文学作品である。

五年生の子供は、自分の力ではどうすることもできない問題にぶつかって心を悩ませることが多くなる。こうした時期に『五月になれば』に出会う意味は大きい。主人公の大樹と同じ五年生の読み手の子供たちは、新学期を迎え心を新たにし、希望で胸を膨らませていることであろう。また、自分の意見や考えがすんなりと通らない場面をいくつも経験し、歯がゆさや反抗心を抱いている時期でもある。そういった点からも主人公に同調し、主人公の気持ちにより添いながら学習できる教材である。

本教材は、大樹の揺れる心情や川への募る思い、両親の大樹に対する思いなどが場面を追って効果的に表現されている。そして、心情の高まりと相まって、川の様子を表す言葉や北国の春の訪れを描写する言葉が、時間の経過とともに写実的に表現されている。このような表現に着目して読み進めることは、本単元「心を見つめて読もう」のねらいにおおいに迫るものである。

#### 「A 話すこと・聞くこと」の目標と内容

##### 目 標

- (1) 目的や意図に応じ、考えた事や伝えたい事などを的確に話す事や相手の意図をつかみながら聞く事ができるようにするとともに、計画的に話し合おうとする態度を育てる。

##### 内 容

- (1) 話すこと・聞くこと的能力を育てるため、次の事項について指導する。  
ア 考えた事や自分の意図が分かるように話の組立てを工夫しながら、目的や場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。

#### 「B 書くこと」の目標と内容

##### 目 標

- (2) 目的や意図に応じ、考えた事などを筋道を立てて文章に書くことができるようにするとともに、効果的に表現しようとする態度を育てる。

##### 内 容

- (1) 書くこと的能力を育てるため、次の事項について指導する。  
イ 全体を見通して、書く必要のある事柄を整理すること。

#### 「C 読むこと」の目標と内容

##### 目 標

- (3) 目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読

書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。

内 容

(1) 読むこと的能力を育てるため、次の事項について指導する。

ウ 登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと。

オ 必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫すること。

本教材では、場面の様子や登場人物の心情を叙述に即して豊かに読み取り、その読み取ったことを他に効果的に表現するために、音読を取り入れていく。自分で読み取ったことをもとに音読記号を付けていく活動を組み入れる。音読記号を付けていくことは、個の読みを形成していくうえで重要な役割を果たすと考える。「この叙述からはこのようなこと（心情、情景等）が理解できる。だから私はこう表現しよう。」という一連の思考がはたらくはずである。この思考の流れこそ、叙述に即して豊かに読むことへとつながっていくものである。また、個の豊かな読みを他の豊かな読みと関係させることによって、深い読みへと導いていきたい。

単元のつながりを見ると、第4学年では、「場面の移り変わりとらえ、人物の心の動きを想像しながら読むこと」を学習してきている。そして、本単元では「場面の描写と関連づけて、登場人物の心情の移り変わりを読むこと」がねらいとなっている。ここで学習したことは上巻の『大造じいさんとがん』の読み取りへとつながっていく。また、第6学年では「場面の様子や人物の心情を思い浮かべながら読むこと」の学習をすることになる。

学習指導計画（全7時間）

展開・時	学習活動	留意点
第1時	全文を通読し，物語についての興味付けを図る。 ・題名から話の内容を想像する。 ・通読後の感想発表をする。  単元を学習するめあてをつかむ。 ・音読の工夫 ・音読発表会	一読後の感想を話し合わせる。 ・題名を読み，どんな話が簡単に話し合いをさせる。 ・全文を読み，心に残ったことや登場人物について思ったことを話し合う。 各場面ごとに音読の工夫をしていき，単元の最後には音読発表会をするという目的をもたせる。 ・音読記号の付け方，発表会の仕方
第2～5時 第4時 （本時）	場面ごとに，音読の工夫について話し合いながら，人物の心情が効果的に描かれている表現に着目していく。 起・(一)・(二)の場面 承・(三)の場面 転・(四)の場面 結・(五)の場面 “音読の記号例” _____> 速く ~~~~~ ゆっくり ===== 強く ----- 弱く <<< 間 _____ 自由記述	起承転結の場面ごとに登場人物の心情が効果的に描かれている表現に着目させ，音読記号を付けることによって読みを深めさせる。 ・転校の話が聞かされ，いちばん大事なつりができなくなり，体の中から川の音が聞こえてくる大樹。 ・川への思いが高まり，川と約束する大樹。 ・川との約束を一生懸命話す大樹とそんな大樹の気持ちを理解する両親 ・学校帰り，めいっぱいこの川と一緒にいようと心に決める大樹と六月一日，朝五時の大樹の姿。
第6～7時	音読発表会の練習をする。 ・発表する場面を選ぶ。 ・グループごとに役割分担をして練習をする。 ・グループで発表し合う。 【ちょっと聞いてカード】  音読発表会をする。 ・適切な速さや音量 ・間の取り方 ・役割分担 発表会の感想を話し合う。	今まで学習してきた音読記号をもとに場面の様子や人物の心情を考えながら音読の練習をさせる。 ・自分で発表したい場面を選び，同じ場面を選んだ人どうしてグループを作らせる。 ・音読記号をもとにグループ内で役割分担をして音読の練習をさせる。 ・音読の練習を他のグループにも聞いてもらい，お互いにアドバイスし合うように助言する。  グループごとに発表の場所を決め，音読発表会の手順を確認させる。 ・4年生，5年生，6年生の一学級で発表会を行い感想をもらう。 反省カードにより振り返らせる。

## 本時の展開（本時 4 / 7）

### 目 標

・会話や行動について書かれた叙述に着目することによって，川へ対する大樹の思いや両親の気持ちの変化を読み取ることができる。

### 評価規準

ア 大樹や両親の気持ちを想像しながら進んで音読記号をつけようとする。

（関心・意欲・態度）

イ 叙述をもとに，川に対する大樹の強い思いや両親の気持ちの変化した理由を想像しながら，読む。（読むこと）

ウ 会話や行動から心情を読み取り，速さや音量，間に気をつけて音読する。（読むこと）

### 展開例

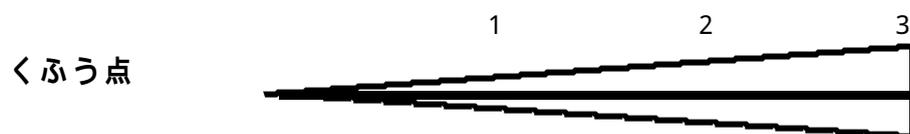
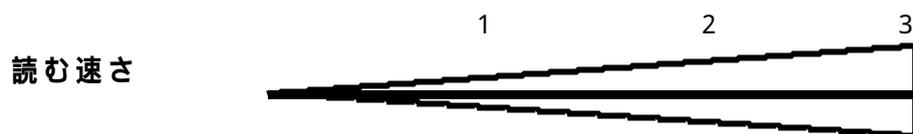
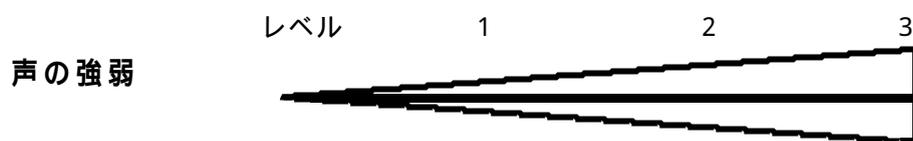
学習活動	学習内容・留意点	評価・支援
1 （四）の場面を読み，学習のめあてをつかむ。	内容を考えながら自分のペースで読む。（ばらばら読み） 場面のあらすじを発表する。 ・川といっしょにいたい大樹 ・初めは反対する両親 ・川との約束を守るように言う父	大樹や両親の会話や行動について書かれている叙述に注意させる。 あらすじを言うことにより，話の流れと4の場面における転換点に気づかせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     なぜ両親は初めは反対していたのに、残ることを許したのだろうか。                 </div>		
2 会話や行動の叙述から両親の心情の変化を話し合う。	自分の考えを発表したり，他の意見を聞いたりすることで考えの再構築を図る。 ・大樹の川へ対する強い思いを理解しようとする両親 ・普段の生活と川との強い結びつき ・しいんとした時間の両親の心の中 ・父と大樹の関係 ・父にとっての川	聞・話：叙述をもとに大樹や両親の心情を相手にわかりやすく話すことができる。 会話文をもとに心情把握をさせる。また文末表現も手がかりにさせる。 他の意見をしっかりと聞かせ，意見を絡ませながら深い読み取りをさせる。 大樹にとっては特別な「あの場所」だということや父にとっての川ということも考えさせる。
3 音読記号を付け，練習する。 ・記号の書き込み ・練習	主に大樹や両親の会話に音読記号を付け，それをもとに音読の練習をする。（音読記号を付ける箇所の制限は無し。）	関：すすんで音読記号の書き込みに取り組み，自分の読みを深めようすることができる。 前段階での話し合ったことをもとに書き込みをさせる。

	<p>・「<u>そんなこと，できるわけないでしょ。</u>」  <u>「休みの日に父さんと車で来ればいいさ。」</u> やさしく          父と母は顔を見合わせる。          （転換点）  <u>「川との約束。守らないといけないな。」</u> &lt;  <u>「でも，夏休みまでよ。母さんも残るから。」</u> 言って聞かせる          ・「<u>もっと上流まで行ってみたいんだ。・・・クレソンの花がさいているんだよね。</u>」          ねんをおすように</p>	<p>どのような記号を付ければ会話文が生きてくるかを考えさせる。          最初は強い反対の気持ちだったが，転換点を経て認める気持ちへと変わっていくさまを書きこませる。          「でしょ。」「いけないな。」などの文末表現にも目を向けさせて心情把握をさせる。          書きこみが終わった児童から音読の練習をさせる。どのように音声化をすれば内容理解にいちばん合っているかいろいろ工夫させる。          会話文以外でも時間があれば書きこみをしてよいことにする。</p>
<p>4 音読の発表をする。          ・(四)の場面の音読</p>	<p>書き込みを参考にし，二人一組みになって(四)の場面を音読する。          《手順》          ・特に注意して読むところを言う。          ・場面音読          ・感想【声のパワー度カード】          ・交代          代表者による音読発表          ・2～3名の音読          ・音読に対する意見</p>	<p>読：大樹の川へ対する強い思いを理解し，残ることを認める両親の気持ちの変化を読み取り，心をこめて音読できる。          感想発表を大切にすることで，読みの修正や聞く力の育成を図るようにする。          教師のほうで机間指導の際に読む児童を決めておく。          大樹や両親の心情をどのように音声化するかをポイントとして聞かせる。          自分の読みとの違いを考えさせる。          意見が分かれた場合は，音声化させてみる。</p>
<p>5 本時のまとめと次時の予告をする。</p>	<p>(四)の場面を各自の書きこみをもとに音読する。(ばらばら読み)  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">             両親は大樹の川へ対する強い思いを理解し，残ることを認めることにした。         </div>          次時の予告          ・5の場面の読み取り</p>	<p>仕上げの読みなので特に会話文を注意して読ませる。          両親の気持ちの変化を再度おさえ，各自の音読記号のもとにまとめの音読をさせる。</p>

# 声のパワー度カード

5年 組 名前

[ ] の場面の音読 (数字を丸で囲もう)



ひと言

[ ]

- レベル3      パワー全開
- レベル2      パワー十分
- レベル1      パワー不足

聞いた人